

Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel: 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

JRRN ニュースレター第13号では、JRRN 事務局活動報告として、先月上旬に石川県を中心に北陸地方の河川視察を目的に来日した韓国河川協会の視察支援の内容を掲載します。また寄稿記事では、(独)土木研究所河川生態チーム主任研究員で、JRRN 会員として日頃から JRRN 運営に様々な助言を頂いている中村圭吾さんによる「第4回国際河川環境ワークショップ (韓国)」参加報告を紹介致します。

JRRN では、ネットワークの更なる拡大に向け、団体・個人会員数の増加を図りながら、国内外の河川・流域の再生や水辺の活性化に関わる情報や人材リソースの充実化を目指していきたくと思います。

日頃の河川環境再生に関する活動を通じて得られた教訓、地元の川に対する思いなどを募集しておりますので、引き続き、JRRN 会員皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

活動報告

韓国河川協会来日視察の支援報告

2008年6月4日(水)～8日(日)にかけて、韓国河川協会の海外視察団(41名)が石川県を中心に北陸地方の河川・水辺の視察を目的に来日し、「アジア河川再生ネットワーク(AARRN)」事務局として国内受入機関との調整役を担うとともに、金沢市内を流れる犀川視察では、AARRN 玉井会長(金沢学院大学教授)が視察団に同行しました。視察団の概要は以下の通りです。

●視察団名：

韓国河川協会「2008 海外河川探訪～水路復元を通じた水郷再生及び河川復元現場視察」

●参加者：

韓国河川協会幹部及び会員(自治体公務員、民間エンジニア、大学教授等)41名

●視察場所：

① 石川県の前川水郷のまち景観保全地区、② 木場潟公園、③ ゲンジボタル発生地、④ 旧大聖寺川ふるさとの川整備事業、⑤ 鴨池観察館、⑥ 犀川河川整備事業

●国内受入機関：

加賀市、石川県土木部・南加賀土木総合事務所、小松・加賀水郷再生協議会、北陸応生態工学会 等



前川の視察風景



串民俗資料館にて



木場潟公園の説明



加賀市長による挨拶



旧・大聖寺川の視察風景



旧・大聖寺川（ふるさとの川整備事業）

今回の視察研修は、昨年12月に大分県別府市で開催された第一回アジア・太平洋水サミットにおいて、今回の視察先の加賀市と韓国河川協会の意見交換をきっかけに実現し、「アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）」が仲介役として双方交流の窓口を務めました。

日本の地方都市における河川や水郷再生事例の視察を通じて、国内の技術や施策のPRを行うとともに、河川再生に関わる日韓の意見交換を行うことができ、河川環境再生分野での今後の更なる日韓交流の契機になればと思います。（記：JRRN事務局）

<韓国河川協会とは？>

人間と自然が調和する河川環境の保全、復元及び快適な水辺文化空間の造成のための政策を実行し、関連技術の調査研究と広報、教育及び技術諮問等を通じて公共福祉の増進、河川文化の継承、会員相互間の友好増進を目的とした組織です。主な活動内容は、

- ・ 河川に関する計画、調査研究、制度・政策開発
- ・ 河川関連施設の設計、施工、基準設定などに関する調査研究
- ・ 河川事業に使われる機資材の品質管理関連業務
- ・ 河川に関するホームページ運営、刊行物及び技術書籍の発刊
- ・ 河川管理と河川環境保全、復元及び水辺文化に関する政府公共団体その他関連機関の委託業務
- ・ 河川と係わった産業の振興及び経営合理化に関する調査研究
- ・ 河川に関する対国民広報及び啓蒙活動
- ・ 河川に関する研究発表会、研修会、ワークショップ開催と見学及び視察等

寄稿記事

第4回河川環境国際ワークショップ(韓国)の報告

— 韓国、アールガウ州(スイス)、トリニティ川(米国)の河川再生 —

寄稿者：中村 圭吾（（独）土木研究所河川生態チーム主任研究員・JRRN 会員）

6月3日に、韓国建設技術院(KICT)が主催した第4回国際河川環境ワークショップに参加する機会を得ましたので、簡単ですが、韓国の河川再生や参加者から得た情報などについて報告します。また、会議前日の6月2日にはいくつかの河川再生事例を見学しました。訪問した河川は、良才川(ヤンジェ川)、慶安川(ギョンアン川)、それに有名な清溪川(チョンゲ川)です。

1. 河川再生事例

① 良才川(Yangjae-cheon)：ソウル特別市 Seocho 区(瑞草) —都市河川の再生事例

ヤンジェ川は1998年に施工されたソウル市 Seocho 区の事例です。以前の典型的都市河川の直線流路と比較して、景観的にかなり改善されています。低水路護岸は、捨石、カゴ工など様々な工法が使用されており、実験的に設置されたと考えられます。再生後、観察される魚類も増え、またサイズも大きくなっているそうです。周辺の学校の生徒が、袋を持って河川の清掃をしている姿が印象的でした。このヤンジェ川の計画には土木研究所に長く滞在した韓国建設技術院の李参熙(イーサンミ)博士も関わっており、さる6月5日、これらの河川復元に関わる功績を認められ大統領から国民褒章を受けています。



再生前の状態に近いと考えられる施工区上流(ヤンジェ川)



ヤンジェ川 再生区：魚類現存量も増えている



ヤンジェ川 再生区の下流側

② 慶安川(Gyeongang-cheon)：ダム上流端の自然再生

ソウル市の水がめであるパルダングダムの上流端にあたる地区において、湿地の保全および農地からの湿地再生が実施されています。非常に広大な地域(162,000m²)で、湿地が再生されており、ソウル近郊の貴重なコアハビタットとして機能していると考えられます。湿地は流域からの面源負荷対策としても効果が期待されます。



ギョンアン川 パルダングダム上流

③清溪川 (Cheonggye-cheon) ソウル中心部

最後に、都市河川の再生事例として有名なチョンゲ川を視察しました。チョンゲ川は世界でも最大級の都市河川再生事例です。報告が多いので詳細は避けませんが、今回気になったのは、3年前と比較して河床の細粒土砂が増えたことです。上流域の無いチョンゲ川では、掃流力がどうしても不足します。その維持管理手法について、熱心な議論がされているようです。



開発が進むチョンゲ川周辺: チョンゲ川は単なる河川再生ではなく、ソウル中心部の都市再開発となっています。

2. ワークショップ

ワークショップでは、日本（筆者）、韓国、オランダ、スイス、アメリカの5カ国からの講演がありました。そのなかから2つの発表について紹介します。ちなみに筆者は日本の河川再生の取り組みについて発表しました。

① トリニティ川の河川再生

ユタ州立大の教授で、IFIM (PHABSIM) の研究者として有名な Thomas Hardy 氏からは、カルフォルニア州北部のトリニティ川 (Trinity River) の河川再生について、発表がありました。トリニティ川は、過去に流量の90%が他の流域に分派され、劇的な環境変化を

受けました。現在、人工出水、土砂供給、河道の樹林化対策などが実施されています。日本と共通する課題も多いので、非常に参考になる事例です。詳細は、末尾に記載したウェブサイトを参考にしてください。

② スイス・アールガウ州の河川再生

スイスからは、アールガウ州の河川管理者 Bruno Schelbert 氏から、州での取り組みについて発表がありました。アールガウ州では、過去150年間に90%の氾濫原が失われましたが、最近の頻発する洪水や環境に対する要求もあり、2014年までに州の1%の面積 (14km²) にあたる氾濫原を再生することを決定しています。そのため、治水・親水・環境対策を兼ねた氾濫原公園 (Auenschutzpark) などが整備されています。

また、アールガウ州では多くの本川上の発電ダムが水利権の更新時期に来ており、その更新条件として、維持流量の増強と連続性を保つためのバイパス魚道の設置が義務となる場合が多いようです。そこで、写真に示すバイパス魚道の設置が数多く実施されています。写真はアールガウ州にあるヨーロッパでも最大級のバイパス魚道です (詳細は参考 URL)。



Ruppoldingen (アーレ川) のバイパス魚道

参考 URL

○トリニティ川の河川再生 (英語)

<http://www.trrp.net/>

○スイス・アールガウ州氾濫原公園 (独語)

http://www.ag.ch/alg/de/pub/natur_landschaft/auenschutzpark.php

○Ruppoldingen に設置されたバイパス魚道 (英語)

http://www.atel.eu/en/group/about_us/company/responsibility/environment/ruppoldingen_bypass_watercourse.jsp

会議・イベント等 (2008年7月)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

- JRRN 河川再生に関わるミニ講演会「テーマ：環境流量」

○日時：平成20年7月18日(金) 15:30-17:30
○会場：財団法人リバーフロント整備センター
○講師：大町利勝氏
○詳細：近日中にJRRNホームページに掲載します

(その他の河川再生に関する主なイベント)

- 土木学会地球温暖化対策特別委員会シンポ「土工学は地球温暖化問題に如何にして挑むのか？」

○日時：平成20年7月2日(水)
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/801.html>

- 第6回水文・水資源セミナー「地球温暖化時代における水文・水資源と水管理」

○日時：平成20年7月3日(木) 10:00~18:00
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/810.html>

- 『水の知』(サントリー) 総括寄付講座設立記念シンポ

○日時：平成20年7月4日(金) 14:00~17:00
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/807.html>

- 第5回 河川環境研究会「海岸環境の保全・再生における土砂管理の役割」

○日時：平成20年7月7日(月) 15:00-17:00
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/812.html>

- 第22回技術研究発表会「気候変動に伴う世界の水問題とバーチャルウォーター」

○日時：平成20年7月11日(金) 10:50~12:00
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/809.html>

- 第122回河川文化を語る会『水と文化の回廊～松江市の水と文化の歴史をさぐる』

○日時：平成20年7月14日(月) 18:00~20:00
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/676.html>

- 2008新河岸川流域”川まつりリレーフェスティバル”

○日時：平成20年7月19日~2008年8月18日
<http://www.a-rr.net/jp/event/02/817.html>

- 第6回河川環境管理財団研究発表会

○日時：平成20年7月24日(木) 13:00~18:00
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/811.html>

- 第14回とうきゅう環境浄化財団助成研究ワークショップ「多摩川流域の生物多様性の保全を考える」

○日時：平成20年7月28日(月)
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/820.html>

冊子・ビデオ等の紹介

- 流域都市論—自然と共生する流域圏・都市の再生 (2008.3 発刊)

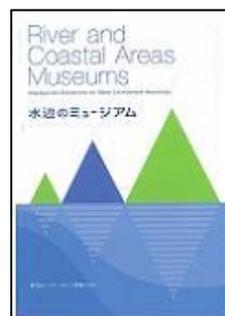
- ・著者：吉川 勝秀
- ・出版社名：鹿島出版会
- ・発行年月：2008年3月
- ・価格：¥5,040(税込)



本書では、自然と共生する流域圏・都市の再生のあり方について、日本国内と世界各国の事例を紹介しながら、再生に向けたシナリオを論じています。

- 水辺のミュージアム (2007.9 発行)

- ・発行：(財)リバーフロント整備センター
- ・価格：無料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館の中から、特色のあるものを紹介した冊子が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

※ 本書をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター技術普及部」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-3265-7121 / Fax：03-3265-7456

事務局からのお知らせ

JRRN は設立して 2 年目を迎えました。JRRN は今後も様々な活動を展開していきますので、まだご加入でない方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

■ JRRN の登録資格

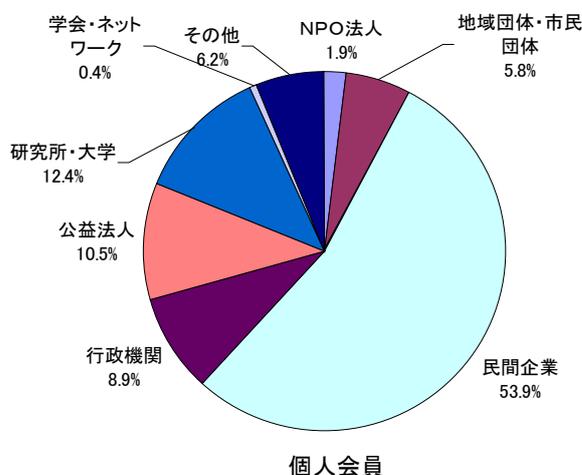
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

市民団体、NPO 法人、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008 年 6 月 27 日時点の個人会員構成

【問い合わせ先】

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内
東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@arr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

■ 会員登録方法

以下のホームページより個人・団体会員登録が可能です。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>